

紙碑

第七集

被爆者のあかし

広島原爆養護ホム

<http://www.hge.city.hiroshima.jp/>

紙 碑

—被爆者のあかし—

第 七 集

広島原爆養護ホーム

これまで刊行しました「紙碑」全7集を当事業団ホームページ
(<http://www.hge.city.hiroshima.jp/>)に掲載しております。

寄稿者や被爆区分から検索することができますので、是非、ご
利用ください。

写真提供

広島平和記念資料館

川 本 祥 雄 氏

広島市広報課・平和推進課（表紙写真）

はじめに

公益財団法人広島原爆被爆者援護事業団理事長



鎌田 七 男

昭和二十年（一九四五年）八月六日、多くの尊い命が犠牲となり人々の心に大きな傷あとを残した、あの原爆投下から七十年を迎えます。

被爆者の高齢化が進み、かつて三十七万人以上だった被爆者の数は、昨年三月末の時点で二十万人を割り込みました。被爆体験を直接聞くことができる機会はいよいよ少なくなっており、若い世代への被爆体験の継承は喫緊の課題となっています。

被爆体験記「紙碑」は、入園されている方々の被爆者としての思いや生き抜いてこられた姿を後世に長く伝えるため、昭和五十六年七月、被爆三十五周年・原爆養護ホーム開設十周年の年に、第一集を刊行いたしました。それ以来、六集を刊行いたしました。三百三十四人の方々にご寄稿いただき、各方面から温かいご支援とご理解をいただいております。

このたび、当事業団では、被爆七十周年・原爆養護ホーム開設四十五周年という節目の年を記念いたしました、五十四人の体験を取り纏め、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に切なる願いを込めた第七集を刊行いたしました。

この第七集には、直接被爆された方（三十七人）、原爆投下後に入市された方（十三人）、救護活動・看護業務等に従事された方（四人）の被爆直後の生き地獄のような想像を絶する惨状や逃避行動、残留放射線の中で肉親の安否を求め続けた苦悩の軌跡、原爆の後遺症に脅えながら厳しい環境を生き抜いてこられた悲痛の生活史が記されており、また、「地球上から核兵器をなくしたい」、「自分達がした経験は誰にもさせてはいけない」という核兵器の非人道性と平和への思いを強く訴えられています。

被爆の惨禍を身をもって知る被爆者の高齢化で、被爆体験を直接伝える機会が失われることへの懸念が強まっている中で、本書が、被爆の実相を継承する貴重な体験記として、一人でも多くの方々の目に触れ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて考える機会になることを願っております。

第七集の編纂に当たり、辛い悲惨な体験でありながら、次世代の人達に平和な未来を託す思いを込め、熱意をもってご寄稿くださいました方々に深く敬意を表しますとともに、貴重な被爆写真の提供をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

「紙碑・被爆者のあかし」

目次

はじめに 公益財団法人広島原爆被爆者援護事業団理事長 鎌田 七男

舟入むつみ園（三十二人）

姉を置きざりに	青木俊之	1
原子爆弾投下について	雨森鶴江	3
平和な今、忘れてならぬこと	石井綾子	5
私の八月六日	江島マサ子	7
看護の日々	胡子キヨ子	9
小学二年生の体験	胡子喜世子	12
原爆体験記	太田政寛	15
一九四五年（昭和二十年）八月六日について	岡田敏夫	17
十一歳の夏	落窪敏子	20

原爆の日は静かに祈りの日	香川	富子	22
忘れられない恐怖心	亀井	紀子	24
原爆キノコ雲	川崎	哲子	27
忘れられない八月六日	川又	幸子	29
少女時代只一つ残る思い出	北川	静伊	31
戦争の思い出	木本	美智子	33
六十九年前に被爆した思い出	桑本	曜三	36
思い出したくない体験	近藤	ヒナ子	38
私の原爆体験記	堺	信子	40
あの頃	菅	喜代子	42
忘れられない夏	津田	玲子	44
私の被爆体験記	坪石	智子	46
家族を亡くした悲しみ	得井	壽美恵	48
原爆の恐ろしさ	中	壽美子	50
私の原爆体験記	中本	月見	52
八月六日という日は私の心の中の癒えない傷	西田	カズエ	55
幼き記憶	藤田	春江	58

神田山やすらぎ園（八人）

兄弟を看護して		藤原サヤコ	60
私の原爆体験記		藤原照子	62
私の体験記		前原信子	65
八月六日は忘れられない日		矢口ハヤメ	68
原爆によせて		吉川胡子	71
平和は尊いこと		吉田寅夫	73
両親に助けられた命		岡本ゑみ子	75
今でも尽きない妹への思い		勝田光子	78
自分だけが生き残って		金藤久代	81
母の分まで生きてこられた幸せ		平野ヒサエ	83
戦争を繰り返してはいけない		増岡ミサコ	86
消えない悲惨な光景		宮尾美奈子	88
広島復興を願って		門出春三	90
忘れえぬ被爆		山崎美代子	92

倉掛のぞみ園（十四人）

原爆が残した傷		朝枝逸子	95
ボロボロに燃えたワンピース		新井スエ子	97
夫へ、私は元気ですよ		岩本ミツコ	99
大切な人を探して・・		大倉節子	101
私の一生忘れられない事		大越サトヨ	103
十一歳の出来事		岡田君子	105
原爆の思い出		川手キヨコ	108
生きる		木村秋子	110
とにかく戦争は止めなさい		中村久子	112
戦後からの足跡		深田幸	114
四歳だった私		三王光子	117
今、命ある幸せ		村田ミコノ	119
こんな目におうて		山口英子	121
被爆体験を後世に		米田君枝	123



広島県商工経済会の屋上から見た広島県産業奨励館
(原爆ドーム) (米軍撮影／広島平和記念資料館提供)



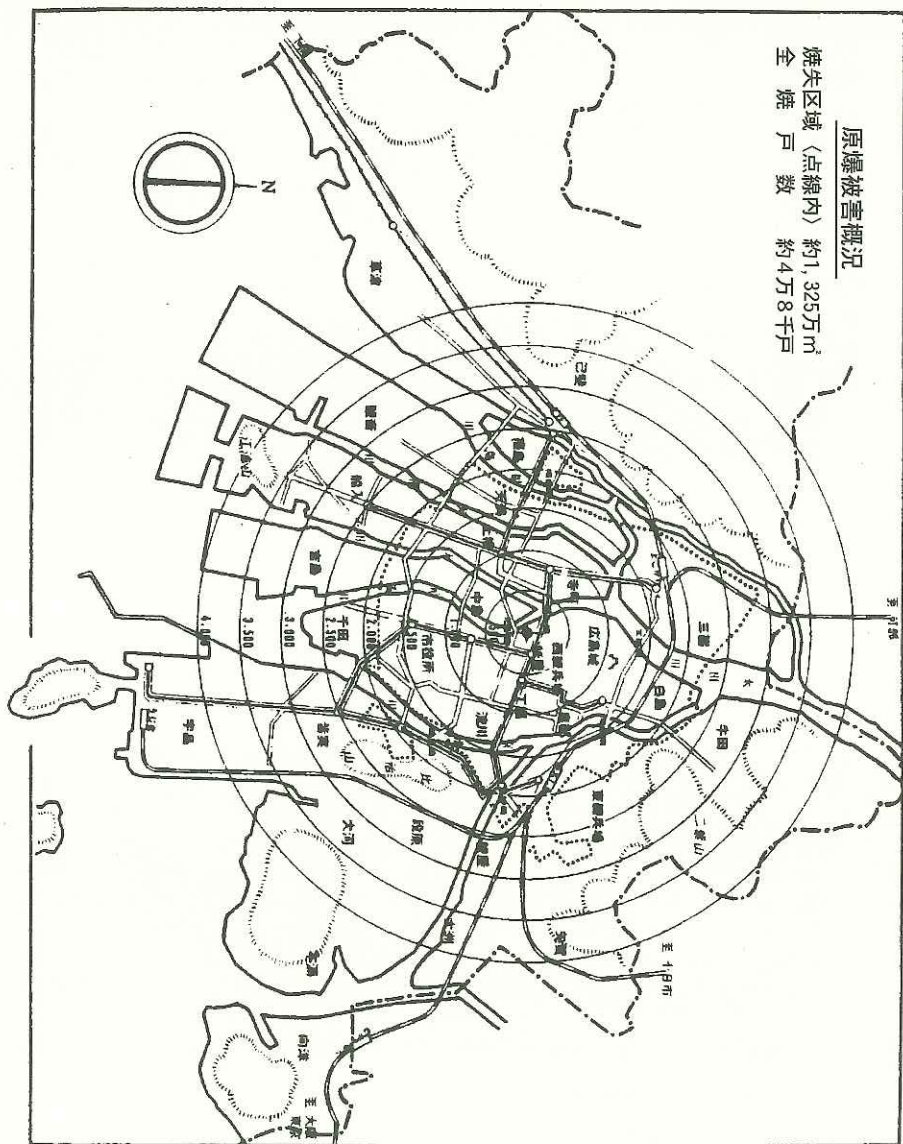
相生橋西北部の航空写真

爆心地上空から相生橋を見る。橋を中心に広島県産業奨励館(原爆ドーム)、広島県商工経済会、本川国民学校が残っている。倒壊した市街地。中央のT字型の橋が投下目標になった相生橋。

(米軍撮影／広島平和記念資料館提供)

原爆被害概況

焼失区域(点線内) 約1,325万㎡
全焼戸数 約4万8千戸



紙碑・被爆者のあかし 第七集

平成二十七年四月一日 発行

編集者
発行者

公益財団法人

広島原爆被爆者援護事業団

広島市安佐北区倉掛三丁目五〇番一号

印刷 可部プリント社

〒731-0221

広島市安佐北区可部三丁目三八―二二
電話 (〇八二) 八二二―二三六五

